

2014～2018 年度の活動報告

(平成 26～平成 30 年度)

会長 松本 耕司 (16)

1. はじめに：

「55 周年(2013 年)記念会報」では、2002 年から 10 年間の活動の概括を記録にとどめた。それを受けて、この「60 周年(2018 年)記念会報」では、2014 年からの 5 年間の活動を記録にとどめておきたい。

2. 2014(平 26)～2018(平 30)年度の主な取り組み、出来事：

① 2014(平 26)年度

12 月 7 日(日)総会(中央電気倶楽部)は 112 名が参加。

・講演は初の会員外講師の尚絅大学助教の宮崎尚子さんで、演題は「川端康成の茨木中学校時代の恩師・倉崎仁一郎(松中 7 期)の真実」

・役員改選・交代を実施：第九代会長に松本耕司氏(16 期)が就任。常任顧問には第八代会長の押田良樹氏(11 期)、副会長には三好資子さん(20 期)、副会長の渡辺悟氏(20 期)が事務局長を兼務。

② 2015(平 27)年度

11 月 29 日(日)総会(中央電気倶楽部)は 113 名が参加。

・講演は松江市教育長の清水伸夫氏(20 期)で、演題は「松江城国宝指定と今後のまちづくり」

・「ゴルフコンペ」を、ゲストも含む春季と、会員に限定する秋季の年二回制に変更。

・2016 年 3 月、新しく「松江北高野球部大阪遠征試合応援」を開始。(甲子園のセンバツ高校野球開催時)

③ 2016(平 28)年度

11 月 27 日(日)の総会(中央電気倶楽部)は 116 名が参加。

・講演は兵庫県立大学学長の清原正義氏(16 期)で、演題は「大学は変わるか?・・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」

・役員改選・交代を実施：副会長に梅木隆志氏(16 期)、監事に鶴羽孝子さん(22 期)が就任。

・10 月、新しく、「“次代につなぐ” 同期会の開催支援」を開始。

・11 月 12 日(土)「母校創立 140 周年記念双松会総会」に松本会長が出席。

・5 年に一度の本部「双松」名簿発刊に合わせ、近畿在住者名簿を総点検、更新。

④ 2017(平 29)年度

11 月 26 日(日)の総会(中央電気倶楽部)は 100 名が参加。

・講演は大和大学理工学部設置準備室長の泉紳一郎氏(24・理 3 期)で、演題は「科学技術の担い手の育成」～日本の将来のキーポイント～

・2018 年 1 月 21 日(日)、新しく、第 1 回「宝塚歌劇鑑賞会」を開始。

⑤ 2018(平 30)年度 (設立 60 周年)

12 月 2 日(日)の設立 60 周年「記念総会・講演会・謝恩懇親会」(中央電気倶楽部)は 125 名が参加。

・記念講演は松江観光文化プロデューサー、湖都松江編集統括の高橋一清氏で、演題は「松江への思い」。

・謝恩懇親会では、60 周年記念事業として「郷土産品の大福引大会」を実施。

・感謝状、記念品を永江幹雄第七代会長(13)、押田良樹第八代会長(11)に贈呈。

・双松会本部に、60 周年記念の「志」として 10 万円を寄付。

・役員改選・交代を実施。

・設立 60 周年「記念会報」を発刊。

3. 概括：

この5年間を評価するのは早すぎるかもしれないが、その前の10年(2002~2013)は「近畿双松会継承のための改革の時代」であったと言える。

北高世代の方々に参加を呼びかけ、「会則」を改訂し、オープンなイメージでの運営を心がけたが、その試みはまずは皆様のご理解をいただけたのではなかろうか。

そして、この5年間は、概してそれまでの「改革」が「定着した5年」ではなかった。

設立50周年(2008)から60周年(2018)までの直近10年をとらえれば、「改革と定着の10年」と評してもよいのではないかと考える。

4. 現状の課題と今後の取り組み：

①現状の課題

上記のとおり、「定着はした」が、設立60周年を終えて、あらためて大きな課題も浮き彫りになった。

それは、記念総会の参加者数を見れば明らかで、50周年時は159名、55周年時は153名であったものが、60周年時には125名になったことにも表れている。

総括すれば以下のとおりである。

- ① 「70歳代」以上の方々は徐々に減少傾向。
- ② 呼びかけを続けている「60歳前後」の方々は増加傾向。
- ③ 「50~40歳代」の方々の伸びは殆ど見られない。

会員の絶対人員が減少していく中、この10年で総会参加人員が30~40名減少していることはやむをえない面もあるが、50歳~40歳代の現役世代の参加が非常に少ないことは、「改革の定着も道半ばであった」ことを物語っている。

そして、このことが設立60周年時の参加者が125名にとどまった大きな原因である。

②今後の取り組み

上記の「現状の課題」は、2019年2月2日の平成最後の役員会に報告された。

この傾向が続けば、やがて近畿双松会の継承に大きな危惧となることの問題意識を共有し、還暦60周年を終え、新元号の開始の「新しい時代」の到来と同時に、**新時代にふさわしい新しい取り組みが求められている**ことも確認し合った。

対策としては、“次代につなぐ”同期会開催支援活動のほかに、“SNS”の利用や、**総会参加費の見直し**など、いろいろな対策が考えられるが、当該の年代の方々は元々の人数も少ないことから、今まで以上に丁寧な対応が求められることは明らかであり、具体的には、次回の事務局会議から本格的な検討をすすめることになった。

5. 終わりに

こういった大きな課題が明らかになった折しも、島根県教育委員会は「2021年入試より、松江北・南・東の松江市内三高校の通学区を廃止する」と発表した。これはこれで数十年後の双松会、近畿双松会に大きな影響を与えることは間違いない。

これまで、こういった環境、条件の変化に近畿双松会はさまざまに対応しつつ、今日の姿に継承してきているので、これもいい契機としてとらえ、**将来、新しい力の参加をいただきながら、近畿双松会の伝統を将来に継承して**いって欲しいと強く願う60周年の終わりとなった。

これまでご支援、ご協力をいただいていた役員、会員すべての皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、山本雅昭常任顧問(7期)のご配慮で事務局をおかせていただいている(株)トーヨーコーポレーションの皆様、特に近田芙佐子様には、この間、大変なご協力をいただきましたこと、心から御礼を申し上げます。

2019. 2. 22

以上